

第16回 CUD勉強会講演 『MY COLORS_私は色弱』制作者からのメッセージ」

アンケート回答 一部

実施日: 2024年08月17日(土) 14:00~16:00 (オンライン開催)

主催: NPO人にやさしい色づかいをすすめる会

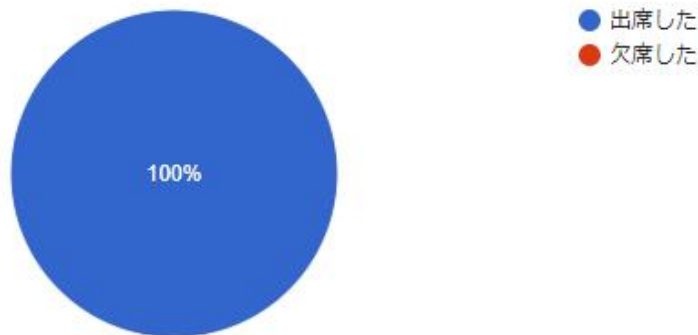
参加人数: 33人

webアンケート: 2024/08/17~08/25実施, 回答者17人(回答率 52%)

Q1: 第16回CUD勉強会 (2024/08/17) に出席されましたか?
欠席された方はQ5~Q8は無回答でお願いします。

 コピー

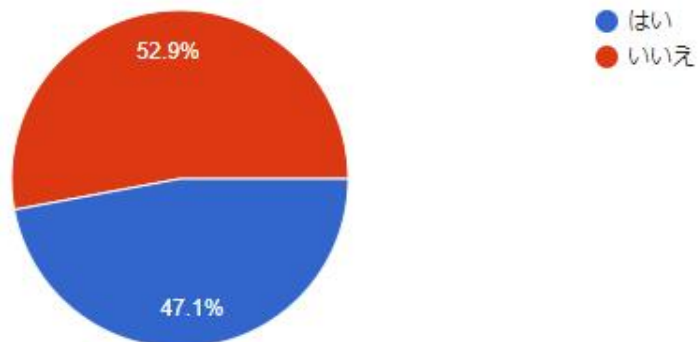
17件の回答



Q2: 当会の過去のCUD勉強会に参加したことがありますか? オンライン形式・集
会形式を問いません。

 コピー

17件の回答



Q3：この勉強会を何によって知りましたか？ あてはまるものが複数ある場合は、参加に直接結びついたものをひとつ選んでチェックしてください。

 コピー

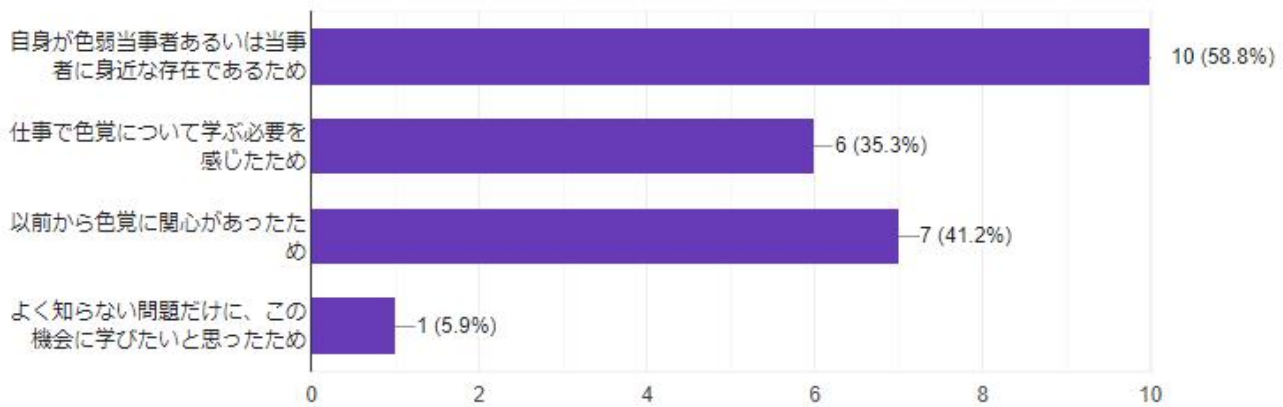
17件の回答



Q4：勉強会に参加しようとした動機は何ですか？ あてはまるものすべてにチェックしてください（複数選択可）。

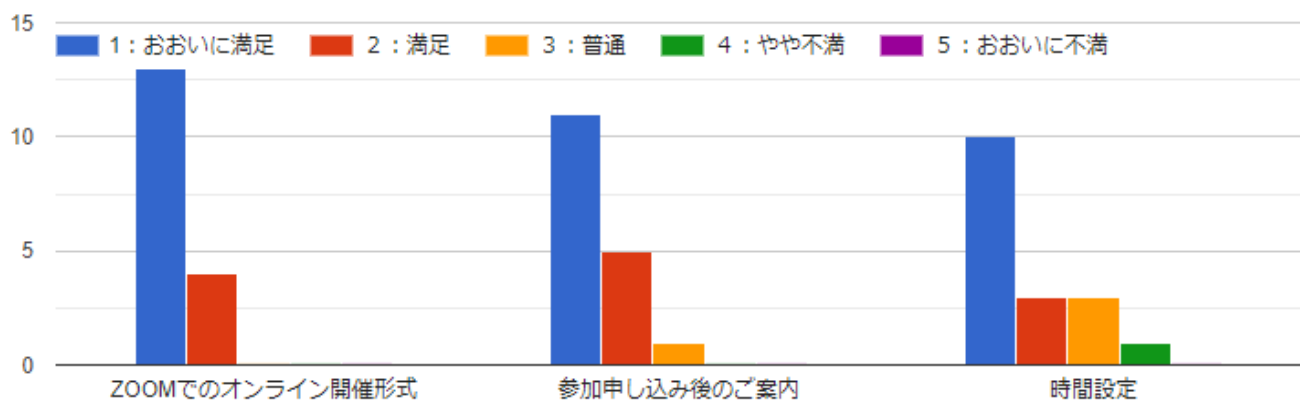
 コピー

17件の回答



Q5：勉強会の運営はいかがでしたか？ 以下の項目ごとに、それぞれあてはまるものをひとつ選んでチェックしてください。

 コピー



Q6：Q5のいずれかの項目で「やや不満」または「おおいに不満」と回答された方にお尋ねします。そのように評価されたのはなぜですか？

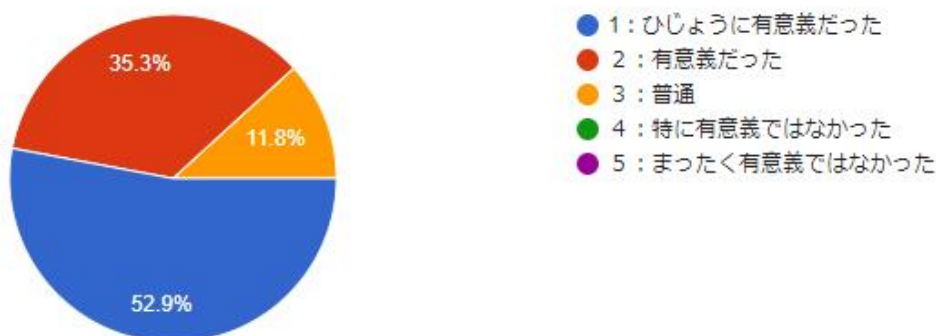
0件の回答

この質問にはまだ回答がありません。

Q7：勉強会はどのくらい有意義だと感じましたか？あてはまるものをひとつ選んでチェックしてください。



17件の回答



Q8. 勉強会についてどのように感じましたか。ぜひ感想をお聞かせください。

◎盛りだくさんで時間が足りないぐらいでした。

◎クリエイターの立場でCUDに関心を持ち、それを形にしていった経緯が大変興味深かったです。

◎二部構成も良かったし二時間があつという間でした。

◎『MY COLORS 私は色弱』...という題目を見たので、講演者は当然、色弱者だと思っていたら、違っていたので驚きました。知っていたら不参加だったかも知れません。事前に知らせてほしかったです。

◎2時間の時間配分が適切ではなかったかもしれないと感じている。後半の事前質問への回答が駆け足になってしまい、時間に追われていた。前半の60分レクチャーに少し時間をかけ過ぎたかもしれない。吉田氏のお話はどれもおもしろかったが、「なぜ色弱？」(色弱を取り上げた理由)と、ドラマ「君が心をくれたから」の解釈、参考にした映像作品は？という事前質問への回答が特に興味深かった。映像の作者が、自身の制作プロセスと作品に込めたメッセージをこれほど明確に言語化して見せてくれる機会はあまりないと思うので、その意味でも、すごくおもしろかった。CUD普及に協力したいとお話もあったので、期待したい。

◎講演者が色弱だと思い込んでいて、どのように色弱を表現するのか興味がありましたが、そうではなく、一般色覚者が色弱をどう表現するのかというところに関心に移り、それはそれで興味深く拝聴しました。講演者がどうして色弱に向かうのか、そのトリガーはなにかというところは 掴み切れませんでした ただほんとうに関心があり、ひきつづきテーマのひとつとして抱えていただけると うれしいです。期待しています。

◎C型の若い方が、色弱・CUDに興味を持ち、映像作品を製作されたこと、大変すばらしいことだと思いました。

◎今回は本当に貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。ご縁に留まらず、学びという面でこの上な

い成長のきっかけとなりました。感謝いたします。

◎色覚特性を持つ方や、実際に関わりのあるお仕事をしている人など、すでに知識があって日常的に取り組んだりする方々から学ぶ勉強会だと思っていたのですが、今回は新たに学び始めた方の勉強会で、初心に戻る良い機会となりました。また、勉強会を通じて、さまざまな周知の方法があるなど改めて感じました。大変有意義な時間をありがとうございました。これが無料だなんて、本当にありがたい限りです。

◎私はCUDO(東京)で10年間個人賛助会員として活動しています。貴会の勉強会には初めて参加しましたが、とてもよい印象を受けました。いくつか気付いた点を挙げますと、まず司会の林さんと代表の富永さんがうまく役割を分担してスムーズに勉強会を進行している。途中経過を確認しながらタイムスケジュールを守っている。質疑応答において積極的な意見が出され、的確な回答がされている。またCUDの技術的な面は基本として押さえつつ、人の心に寄り添った活動をされている印象を持ちました。まさに「ひとにやさしい色づかいをすすめる会」の名の通りだと思いました。今後も機会があれば参加させていただきますので、よろしくお願いいたします。

◎動画制作者の吉田さんが色弱当事者なのかと思ったら、そうではなく、それでもこのような動画を企画して作って見たということに驚いた。当事者の方だったらどのように描くのか、井原さんとのコラボといった話もあったが、是非見てみたいと思った。お二人の対談がとても興味深かった。

◎吉田様がビデオ編集に "DaVinci Resolve" という無料でも入手できる動画編集ソフトウェア(より高機能な有料版もあり)を利用している場面を拝見し、ふと思ったことがあります。

<https://www.blackmagicdesign.com/jp/products/davinciresolve>

技術の進歩で、クリエイターの仕事(文章作成とか、イラスト作成とか、動画作成など)手軽に始められる時代になりました。例えば、第170回芥川賞を受賞した九段理江さんが、受賞会見で生成AIを駆使して書いた、と述べていたことは、記憶に新しいです。

<https://www.youtube.com/live/nPcMcIl5RW4>

もし、色弱の方がこれらのツールを駆使して映像や写真、絵画、漫画、小説などの作品を制作したとすれば、どのような作品に仕上がるのか見てみたいと感じました。昨年、色弱のシミュレータを使って制作を進めたのですが、やはり、色弱の方の意見を聴かなければ駄目だ、と、思い知らされました。かといって、色弱ではないデザイナーが作成したデザインを、色弱の方がチェックし、色弱ではないデザイナーが再び修正する、という流れは、大変コスト高になり結果も不安定です。おそらく定着しないでしょう。これに対し、井原様のような色弱のデザイナーにデザインしていただければ、この問題は一気に解決します。色弱のクリエイターは宝だと思います。もっと増えて欲しいと思いました。吉田様のような色弱に理解を示す色弱ではないクリエイターと、井原様のような色弱のクリエイターがタッグを組めば、さらに面白い結果を生み出してくれそうです。色弱のクリエイターが活躍できる場(機会)を作っていくことが、人にやさしい色づかいが増える糸口になる気がしました。

◎吉田様の考えを聞いて、色覚に関しての捉え方について視野が広がりました。当事者に限らず、人生観や日々の感じ方により捉え方は個人に大きく依存するし、本当に様々だと思えました。同時に、具体的な色づかいは引き続き大切だと認識しつつも、それ以上に色覚の多様性について社会的に理解を広めることが優先されると感じました。今回の勉強会を通して考えが柔らかくなり、とても有意義でした。ありがとうございました。

◎動画制作者ご本人から制作の意図をしっかりと語っていただけたことが良かったです。また、講師と取材を受けた当事者との対談は、お二人がクリエイターなだけに興味深い内容でした。

◎女性が上手に化粧ができないという話など、私には実際に色弱の姪がおり、思い浮かべながら聞いておりました。女性は200人に1人が色弱とされていて、男性より割合が少ないですが、困る場面はより多いのだろうな、などと

考えたりしました。私自身はD強型の男の当事者ですが、確かに困ることはあるものの、悲観的になったことは不思議となく、他の方もそんなものだあまり深く考えたことはありませんでした。しかし、今回の勉強会で、自分基準で他他の当事者のことを安易に考えてはいけなと考えさせられました。今までになく色弱に纏わることを深く考えるきっかけとなりました。ありがとうございました。

Q9:主催者または講師に対するご質問、ご意見、ご要望等がございましたらご記入ください。

◎講師の映像製作に対する真摯な姿勢がとても良かった。

◎様々な立場でCUDに取り組んでいる方々のお話をうかがいたと思います。

◎色弱者は男性の20人に1人であり女性の色弱者の方とほとんど接する機会がないのが現状です。それをあえてムービーの主人公を若い女性としたのは斬新さを感じました。「直感で」と仰っていましたが先入観がない位の知識の方が面白いものが作れるということに気づきました。

◎講師(映像制作者)が主演者を女性としたのは、大いに疑問です。色弱者の割合は、日本人の場合、男の20人に1人に対し、女は500人に1人と、圧倒的に男が多いからです。

◎ふたり(吉田&井原)が共同で創作する、色覚を扱った作品が見られる日を心から楽しみにしています。ぜひ実現を。

◎お疲れさまでした。なにも協力ができず申し訳ありません。

◎講師のお話の進め方、会の運営がスムーズで、かなり色々準備されたのだと思います。ありがとうございました。

◎何かこの活動の普及にお手伝いできることがあれば、いつでもお声掛けください。

◎主催者のみなさま、いつもご準備など本当に大変かと存じます。今回も非常に有意義で、かつオンラインという便利な方法で参加でき、大変ありがたく存じます。みなさまのご尽力の賜物です。ありがとうございました。

◎講師の吉田達郎さんがNikonが主催する縦型動画コンテストに色弱をテーマとした作品を応募されたことは非常に有意義だと思います。なぜならば吉田ご自身もおっしゃっていたように、色弱者の一般的な知名度は「名前を聞いたことがある」程度であるからです。まずは世間に色弱者を知ってもらい、身近に色を見分けられずに困っている人がいることに気付いてもらう必要がある。その上でどうしたらよいかを考えると、自然にCUD的な発想が出てくる。そんな変化が少しずつ広がっていくことを期待させる作品だと思います。

もう一つ、今回の吉田さんの作品とそれにまつわるお話から気付いたことがありました。それは「取材した井原さんの世界を表現した」ことです。これまで私は色弱者困り事をCUDによって解決することばかり考えていたように、「誰かに教えてもらえばよい」という発想は目から鱗でした。吉田さんの作品に出会えて視野が広がりました。ありがとうございました。

◎特にございません。

◎普段はCUDO(東京)の勉強会に参加することが多いが、今後も日が合えば参加したい。

◎吉田さんの制作した動画は女性が主人公だったことが気になった。井原さんから「最初のインスピレーションを大事にした方がよい」というアドバイスがあったとのことだったが、やはり色弱は男性が圧倒的に多いので。

◎とても有意義な時間でした。ありがとうございました。

◎吉田氏は、多様な色弱全てから汎用的な映像を作るのではなく、取材を基に、1人の当事者の、1人の世界観から

見る1視点作品を生みだした、制作を通して自身が成長することを意識されたと知り、動画をよく理解できました。今後も映像クリエイターとしての力を発揮していただき、色弱やCUDをテーマとしたいろいろな動画制作をぜひお願いいたします。

◎今回はいろいろと考え直したり、見つめ直すきっかけとなり有意義でしたが、講師をされた吉田様のスタンスやお考えが自分に少し合わず、後半の部の途中で退出させていただきました。皆様のご苦勞に対し、申し訳なく思っております。

以上

(2024/9/25 作成)